

# ミナミアオカメムシ

## 1 形態と生態

本種は熱帯から亜熱帯、温帯地域に広く分布し、国内では本州、四国、九州、南西諸島、小笠原諸島に分布します。また近年では、生息分布が拡大しており、地球温暖化による気温上昇の影響を受けていると考えられています。埼玉県では令和3年に露地野菜ほ場にて発生が初確認され、その後水稻や大豆ほ場でも発生が確認されています。

1～5齢幼虫を経過して成虫となり、国内では年3～4世代を経過します。成虫は常緑樹の樹幹部などで越冬しますが、最寒月の平均気温が5℃以下の地域では越冬できないとされています。



写真1 ミナミアオカメムシ幼虫  
(左: 3 齢幼虫、5 齢幼虫)



写真2 ミナミアオカメムシ成虫



写真3 ミナミアオカメムシ成虫  
(色彩変異)

成虫の体長は 12～16mm であり、体色はツヤのない緑色です。近縁種であるアオクサカメムシと似ており、体色の色や触角に着色部がある点、小楯板上端に3つの白い斑点がある点が共通します。一方で腹部背面(翅の下)の色が異なり、アオクサカメムシは一部黒色であるのに対し、ミナミアオカメムシは一様に緑色であり、区別することができます。

また両種とも体色には色彩変異(白色帯型等)があります(写真3)。

表 類似するカメムシとの相違点

| 観察するポイント  | ミナミアオカメムシ            | アオクサカメムシ             | ツヤアオカメムシ           |
|-----------|----------------------|----------------------|--------------------|
|           |                      |                      |                    |
| 体色        | ツヤのない緑色              | ツヤのない緑色              | ツヤのある緑色            |
| 触角①       | 第3,4,5節に褐色部あり        | 第3,4,5節に黒色部あり        | 第3,4節の先端に黒色部あり     |
| 小楯板上端の斑点② | 白い斑点が3つ              | 白い斑点が3つ              | 無                  |
| 腹部背面の色③   | 一様に緑色                | 基部2～4節が黒色            | 一部が紅色～褐色           |
| 加害作物      | 広食性<br>(水稻、大豆、野菜、果実) | 広食性<br>(水稻、大豆、野菜、果実) | 果実<br>(ナシ、モモ、ウメなど) |

## 2 被害の様子

成幼虫ともに口針で植物の汁液を吸汁して加害します。広食性であり、水稻や大豆、野菜類、果樹類など32科145種の作物を加害することが知られています。

水稻では、穂が吸汁加害されることで斑点米が生じます。また他の斑点米カメムシ類と比べて、ミナミアオカメムシは体が大きく、吸汁量が多いため、低密度でも被害が大きくなるとされています。

大豆では、莢内の子実が吸汁加害されることで、莢の落下や不稔、奇形粒となり、減収につながります。また被害が激しい場合は莢への養分の転流がすすまないため、成熟期でも茎葉が緑色のまま落葉しない「青立ち」現象が発生します。「青立ち」が発生すると、収量が減少するだけでなく、コンバインで収穫する際、茎や葉の水分が子実に付着して汚粒となり、品質低下につながります。



写真4 大豆ほ場での幼虫

## 3 発生について

越冬世代成虫は、4月頃に暖くなると越冬地から飛来し、麦や野菜、イネ科雑草で産卵・増殖します。水田ではイネが出穂し始める頃に侵入し、吸汁加害します。

早期移植の水田で増殖した成虫が、普通期移植の水田へ移動し、さらに産卵・増殖するため、9～10月は発生量が多くなります。

水稻収穫期以降は、大豆や野菜のほ場で発生が多くなります。

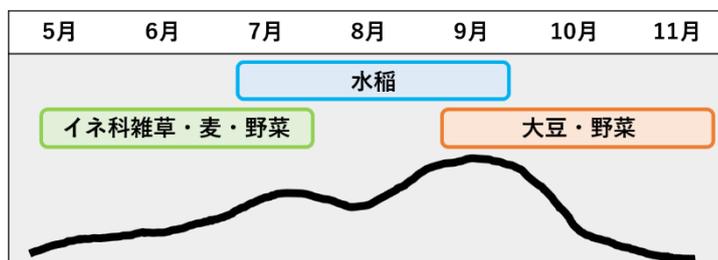


図1 ミナミアオカメムシの発生消長と生息地

## 4 防除時期と防除方法

### (1) 耕種的防除

水稻では、成虫が出穂期頃に水田へ飛来し、穂を加害します。水田周辺のイネ科雑草はカメムシ類の生息地であり、発生源となりますので、年間を通じて除草管理を行いましょう。しかし、出穂期前後の除草は斑点米カメムシ類の水田への移動を助長するため、出穂期の2週間前以降は行わないようにしてください。

水田周辺の野菜、大豆、ゴマ等に本種が発生していないか注意深く確認してください。発生を確認したほ場では、次作の増殖源をなくすため、収穫終了後はほ場を放置せずに早めに片づけてください。

### (2) 薬剤防除

発生を確認した場合は、各作物のカメムシ類に登録のある薬剤で防除を実施してください。ミナミアオカメムシに対して一部の合成ピレスロイド系殺虫剤は効果が低いとされていますので、他の系統の薬剤を選定するようにしてください。大豆では、開花後30日頃(子実肥大初期)の薬剤散布の効果が高いとされています。

### 農薬を使用する場合は、

- ラベルの記載内容を確認して、使用基準(適用作物、使用時期等)を必ず守って使用しましょう。
- 適切な薬剤を選択し、病害虫が抵抗性を獲得しないように、同一作用機構薬剤の連続使用を避けてください。
- 住宅地や近接作物等へ飛散しないように必要な対策を実施するように努め、周囲に十分な配慮をしましょう。

■ 発行 令和4年3月 埼玉県病害虫防除所

■ 問合せ先

埼玉県病害虫防除所 TEL048-539-0661

埼玉県農業技術研究センター病害虫研究担当 TEL048-536-0409



©埼玉県 2005

彩の国埼玉県